

# いわて加工食品輸出促進研究会

お話を聞きした方

左：会長（株式会社水沢米菓代表取締役）  
佐藤 貴之 さん  
右：岩手県南広域振興局  
薄衣 利幸 さん

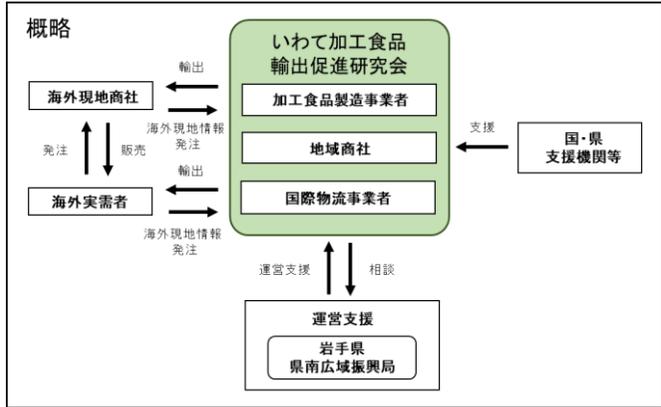


## 地域の多様な関係者が協働して「岩手」の輸出を促進！

岩手県南地域を中心とした複数業種の食品製造事業者15社と地域商社、国際物流事業者がタッグを組んで、海外マーケットにおける「岩手」の認知度向上と、メンバーが製造する地域文化や背景に根ざした加工食品を輸出するための活動を協業して行うため、令和6年1月に研究会を設立しました。

研究会の立ち上げまでは、行政機関である岩手県南広域振興局が中心となって各種調整を行ってきましたが、今後はメンバーが創意工夫をしながら主体的に取組を進めて行くこととしています。

メンバーに食品製造事業者だけでなく地域商社や国際物流事業者も入った「一体型」を取っていることも特徴であり、それぞれのノウハウを活かした取組に加え、地元・釜石港を利用した共同輸送などによるコスト削減の実証にも取り組むこととしています。



研究会を組成することで、単独では難しい取組ができるようになり、国や県、支援機関などからのバックアップも受けやすくなります。

まだ、研究会は立ち上がったばかりですが、これから、それぞれの商品の輸出拡大に向けて、メンバーが切磋琢磨しながらも連携した取り組みを行っていくこととしています。

### Q. 研究会を立ち上げはきっかけは？

平成19年から岩手県南広域振興局が事務局を務め、産学官金が連携するネットワークがありました。その中で輸出に意欲的な会員が集まり研究会活動をしていましたが、今回、加工食品輸出クラスターとして組織化しました。

### Q. なぜ今回組織化したのですか？

これまでは輸出についての研修活動が主な取組でした。ある程度知識が身に付いたので、今後は本格的に輸出に取り組むこととし、改めて意欲あるメンバーを募り、しっかりとした体制を組んで輸出の取組を行うこととしました。

### Q. 「一体型」のメリットは何ですか？

まだまだ輸出のノウハウが十分でないなか、商流や国際物流のプロがメンバーにいることは心強く、具体的な議論が進みやすくなります。また商流や物流を一本化できるので、コストの面での効率的な輸出が期待できます。

### Q. 今後の取組は？

メンバーの協業によって「岩手」が持つ多彩な魅力と自慢の加工食品を世界中に広める取組を行っていきます。将来的には「オール岩手」の輸出の流れをつくるための足掛かりとなるよう、積極的に取組を行っていきます。

### 団体概要

所在地 岩手県 会員数 17社  
設立年 2024年  
HP -

輸出までの道のり

### STEP 1/4

令和6年1月  
「いわて加工食品輸出促進研究会」の立ち上げ



### STEP 2/4

令和6年6月～（予定）  
メンバーの輸出ノウハウの底上げを図るためのセミナーや情報交換会の開催



### STEP 3/4

令和6年8月～（予定）  
国内外の展示商談会への出展や海外現地イベントの開催



### STEP 4/4

海外での「岩手」の認知度とメンバーの輸出経験値の向上を図る

